



東京美術学校

中村史子

19世紀から20世紀にかけてアジア各地で美術学校が設立されるが、その多くにおいて欧米人の芸術家、指導者が大きな役割を果たしている。東京美術学校もその例にもれず、日本の欧化政策のために招かれた米国人アーネスト・フェノロサと、その教え子であった岡倉天心の尽力により1887年に設立された。

しかしながら、彼らの目的は西洋美術の技法や概念を日本に普及させることにはなく、その反対に、伝統的な日本の絵画の復興、発展にあった。西洋美術に劣らない日本固有の絵画を創出するべく、フェノロサと天心は、伝統絵画の継承と革新を試みたのである。ただこれは換言すると、伝統絵画は自らの必然性ではなく、西洋美術の興隆という外的要因を受けて制度化されたことも意味する。

こうした経緯で始まった東京美術学校であるが、やがて西洋美術の学科も設立され、西洋美術を習得すべく他のアジア諸国から留学生も訪れるようになる。西洋美術を共通項にアジア圏内で文化の往還が生じていた点は、注目すべきである。



明治時代の東京美術学校の面影を残す東京藝術大学の一角
写真：鈴木将也

関連ワード

岡倉天心